

カルナバイオサイエンス株式会社

株主通信

第17期報告書

2019年1月1日～2019年12月31日

CONTENTS

トップメッセージ	P01
事業別概況	P07
当社のビジネスモデル	P09
協力会社・子会社ネットワーク	P11
2019年のTOPICS	P12
連結財務諸表	P13
株式の状況／株主メモ	P14
会社概要	裏表紙



世界的製薬企業との提携、臨床試験入りする自社開発品 画期的新薬創出への新たな一步を踏み出す



代表取締役社長
吉野 公一郎



2019年12月期の大きなトピックスは?

ギリアド・サイエンシズ・インクと新規がん免疫療法の研究開発についてライセンス契約を締結

当社の目標は、21世紀に残されたアンメットメディカルニーズに応える画期的な新薬を生み出すこと。その実現に向け、これまで創薬支援事業や自社創薬研究を強化するとともに、有力企業やアカデミアとの提携を推進してきました。そして、2019年6月、世界有数のバイオフーマ企業である米国ギリアド・サイエンシズ・インク(ギリアド社)と新規がん免疫療法の研究開発に関するライセンス契約を締結し、その歩みを加速させることができました。

契約締結に伴い契約一時金20百万ドル(約21億円)を受領。今後、開発状況や上市などの進捗に応じ、追加的に最大で450百万ドル(約472億円)を受け取ることになっています。さらに、本プログラムにより開発された医薬品の上市後の売上高に応じたロイヤリティも得る契約となっており、当社の成長を促すものとして期待しています。

サイエンスを追求するギリアド社と協業し、ファーストインクラスの新薬を目指す

ギリアド社は、インフルエンザ治療薬「タミフル」をはじめ、HIV治療薬やC型肝炎治療薬などの画期的な治療薬を世に送り出してきたバイオフーマ企業です。革新的な治療薬を創出、開発、製品化し、世界35カ国以上で事業を展開する企業であり、高いサイエンスレベルを追求する企業としても知られています。

ギリアド社に対しては、以前からキナーゼタンパク質の販売やスクリーニング・プロファイリングサービスなどを提供しており、創薬支援事業の重要な顧客のひとつでありました。

この創薬支援事業における営業活動がきっかけとなり、当社が開発したがん免疫療法の創薬プログラムのライセンス契約に発展しました。

今回の契約では、創薬プログラムのライセンス契約だけでなく、この研究に必要な脂質キナーゼ阻害剤に関する創薬基盤技術をギリアド社に一定期間、独占的に供与する契約も取り交わしています。サイエンスに基づいたイノベーションで知られるギリアド社と創薬事業・創薬支援事業の双方で協業できることを大変喜ばしく思っています。ギリアド社が進める研究開発を支援し、ともにファーストインクラスのがん免疫治療法の誕生を目指してまいります。

当社が独自に創出した新規がん免疫療法の創薬プログラムをギリアド社に導出



※上記ライセンス契約とは別に、ギリアド社による当該プログラムの開発をサポートするために、当社が開発した脂質キナーゼ阻害剤に関する創薬基盤技術を、有償でギリアド社に一定期間、独占的に供与します。

Q₂ 創薬研究の進捗状況は?

AS-0871は欧州での臨床試験開始に向けて準備中、AS-1763は米国でのIND申請に向けて前臨床試験を推進中

創薬パイプラインの中で特に注力している2つのBTK阻害剤は、順調にステージアップしています。

そのひとつ、AS-0871はキナーゼ選択性が高いことから、炎症性免疫疾患の治療薬として研究開発を進めており、2019年12月にオランダ当局にCTA(欧州における臨床試験許認可申請)を提出し、2020年2月には審査が完了したこと

から、2020年上期にフェーズIの臨床試験開始を予定しています。

もう一方のAS-1763は、イブルチニブ耐性の血液がんを治療標的とする次世代BTK阻害剤です。イブルチニブはよく効く薬ですが、一部の患者で耐性ができてしまうという課題があり、当社のAS-1763のように耐性ができてしまった患者さんにも有効なBTK阻害剤の実用化が強く望まれています。こちらは、2020年中に申請資料を整え、米国FDAにIND申請※を行う予定です。

一般の医薬品候補化合物の場合、フェーズIの試験は健康成人を対象として行いますが、がんの場合は同意を得て、患者さんを対象に試験を実施します。フェーズI段階で効果を確認できるケースもあることから、戦略的な試験デザインが

求められます。こうした海外での臨床開発を着実に進めるために、2019年2月、米国に臨床開発拠点を開設しました。

※IND申請：(Investigational New Drug Application) 新薬臨床試験開始届

臨床開発フェーズの企業へステージアップ

当社は2003年4月、創薬バイオベンチャーとして創業以来、キナーゼ阻害薬を中心に未だ治療法が見つからない疾患に対して画期的な新薬を生み出すための研究開発を続けてきました。

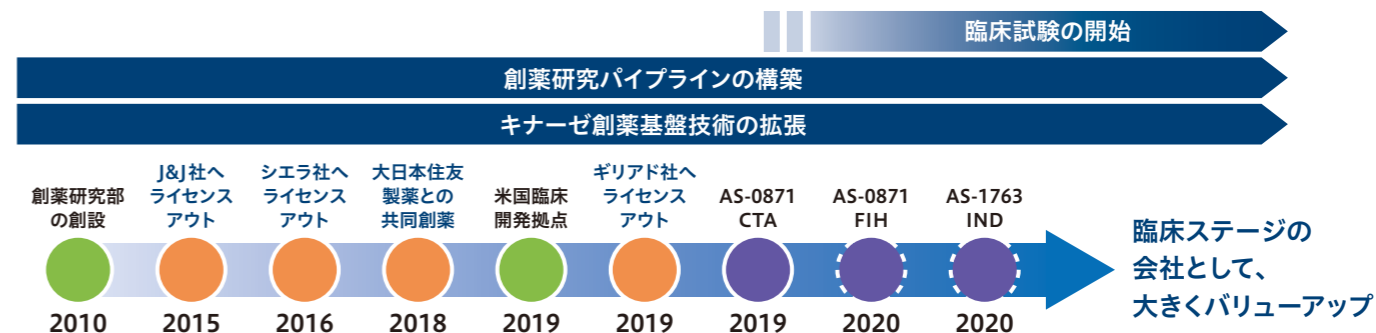
創業事業の本格スタートから5年後の2015年には、米国の大手製薬企業ヤンセン・バイオテック社(ジョンソン・エンド・ジョンソン社の医療用医薬品部門)に、キナーゼ阻害薬プロ

グラムを導出。翌2016年にはカナダのバイオベンチャーであるシエラ・オンコロジー社にCDC7キナーゼを標的としたがん疾患領域の医薬品候補化合物(AS-141、シエラ社の開発コードSRA141)を導出しました。2018年には、大日本住友製薬と精神神経疾患を対象とした新規キナーゼ阻害剤の創製を目指し、共同研究と事業化に関する契約を締結。そして2019年にギリアド社と新規がん免疫療法の研究開発に関するライセンス契約を締結することができました。これは市場に大きなインパクトを与えたと思います。さらに、自社開発中の2つのBTK阻害剤も着実にステージアップし、AS-0871は2020年上期には臨床試験を開始する予定です。導出実績に裏付けされた創薬研究力をもった臨床フェーズの会社として、存在感を高めていきたいと考えています。

創薬事業の研究開発テーマと進捗状況

化合物	標的	対象疾患	探索	前臨床	臨床	開発パートナー
SRA141(AS-141)	CDC7/ASK	がん			IND完了	Sierra Oncology
低分子	キナーゼ	がん免疫				Gilead Sciences
低分子	キナーゼ	精神神経疾患				大日本住友製薬
AS-0871	BTK	免疫炎症疾患			CTA完了	自社
AS-1763	BTK	血液がん・がん免疫				自社
低分子	Wnt-signal	がん免疫				自社
低分子	TGFβ signaling	血液がん・がん免疫				自社
低分子	キナーゼ	免疫炎症疾患				自社
低分子	N/A	マラリア				自社
低分子	キナーゼ	がん				自社

当社が築いてきたキナーゼ創薬基盤技術を活用し、病に苦しむ全世界の患者さんに貢献できる革新的医薬品の研究開発を進めています



今後の施策

- ブロックバスターの可能性のあるBTK阻害剤AS-0871およびAS-1763の前臨床・臨床試験を加速するために先行投資の実施
- 米国に開設した臨床開発拠点を中心に、自社臨床試験の開始に向けて準備を進める

※FIH: ヒトへの初めての投与

Q₃ 当期(2019年12月期)の総括は?

**ギリアド社との契約締結により、大幅増収
創薬支援事業の売上高も過去最高に**

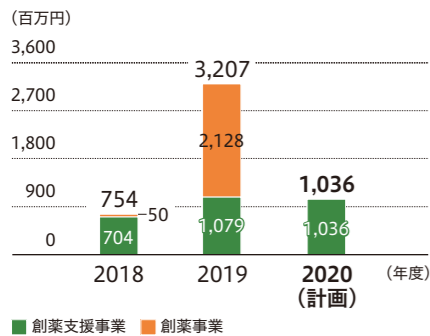
創薬事業の大きなトピックスとしては、2019年6月に米国のギリアド社と新規がん免疫療法の創薬プログラムの開発・商業化にかかる全世界における独占的な権利を供与する契約を締結し、その対価である契約一時金20百万ドルを第2四半期連結会計期間に売上計上できたことです。さらに、当社の2つのBTK阻害剤が自社臨床試験開始に向けて進展しています。

当社のもう一つの事業の柱である創薬支援事業においては、米国や中国でのキナーゼタンパク質やアッセイキットの販売が好調だったことに加え、創薬事業におけるギリアド社

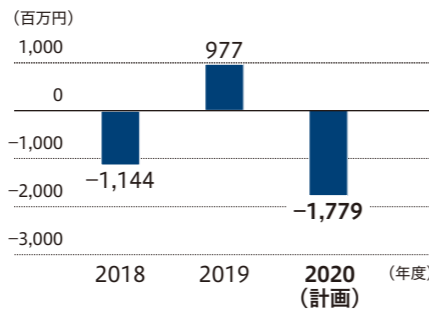
とのライセンス契約に関連し、同社の開発をサポートするため、当社の脂質キナーゼ阻害剤に関する創薬基盤技術を一定期間、独占的に同社に有償で供与する契約を締結。これによって2019年12月期の売上高は過去最高の1,079百万円となり、年間売上高を10億円以上とする目標を達成いたしました。

以上の結果、2019年12月期の売上高は3,207百万円(前連結会計年度比325.0%増)となりました。地域別の売上は、連結ベースで国内売上高が259百万円(前連結会計年度比23.4%減)、海外売上高は2,948百万円(前連結会計年度比608.5%増)となりました。損益面につきましては、営業利益が977百万円(前連結会計年度は1,144百万円の営業損失)、経常利益は957百万円(前連結会計年度は1,159百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する当期純利益は828百万円(前連結会計年度は1,210百万円の親会社株主に帰属する当期純損失)となりました。

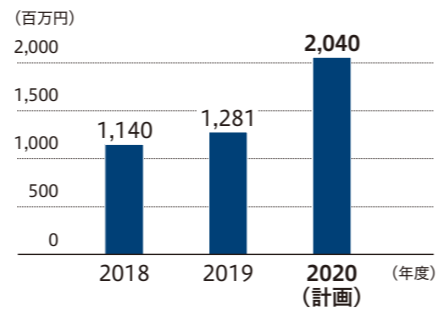
■ 連結売上高計画



■ 連結営業損益計画



■ 研究開発費計画(全社)



Q₄ 今後の成長イメージは?

**画期的な薬を持続的に生み出す
「創薬」企業として成長を目指す**

当社は「創薬ビジョン2030」を掲げ、事業を推進しています。ビジョンでは2016年～2020年に、自社臨床試験を開始するという目標を掲げていますが、この目標の通り、2020年上期に欧州で自社第一号となるBTK阻害剤AS-0871の臨床試験開始を予定しています。もうひとつのBTK阻害剤AS-1763とともに臨床試験を戦略的に進め、ブロックバスター(年商10億ドル以上の大型医薬品)候補品として導出する戦略です。2026年～2030年には、当社が創製した複数の創薬パイプラインからマイルストーンやロイヤリティ収入を得て、画期的な薬を持続的に生み出すグローバル「創薬」企業として存在感を高めていきたいと考えています。

この原動力となっているのが、社員一人ひとりの「画期的新薬を作り出したい」という情熱です。一生のうち1つも新薬を生み出せないケースも多い中、当社は、全員1つは必ず生み出すという気概をもって研究に取り組んでいます。現在、AS-0871の前臨床試験が終了したこともあり、新たな前臨床試験を実施する力もあります。新たな“薬の種”を育て、ステージアップに向け、チャレンジしていきます。

株主の皆様へのメッセージ

当社は2020年に第1号となる臨床試験を開始し、いよいよ臨床ステージの会社となる見込みです。臨床試験には多額の費用がかかるため、先行投資がかさむこととなりますが、これは、早くゴールをたぐり寄せるために必要な過程。ご理解いただきたく思います。

当社が生み出した薬の種が臨床試験を経て新薬として上市されるのはまだ少し先になりますが、その暁には、爆発的な成長が待っていると思います。病に苦しむ患者さんやそのご家族に喜んでもらえるような新薬を作り出すことを目指して研究を進めていますので、長い目でご支援いただきたいと思っています。





創薬事業

2019年12月期の業績

ギリアド社と新規がん免疫療法の創薬プログラムの開発・商業化にかかる全世界における独占的な権利を供与する契約を締結しました。また、前臨床研究段階にある創薬プログラムを中心に研究開発に積極的に先行投資を行い、当事業の研究開発費は1,187百万円(前連結会計年度は1,084百万円)となりました。

その結果、売上高は2,128百万円(前連結会計年度は50百万円)、営業利益は577百万円(前連結会計年度は1,261百万円の営業損失)となりました。

成長戦略は

「創薬ビジョン2030」に基づき、がんや免疫炎症疾患など、未だ有効な治療方法が確立されていない疾患を重点領域とし、画期的な新薬の開発を目指して研究を行います。自社臨床試験の実施が可能となったことから、重点領域の創薬プログラムについては、自社臨床開発パイプラインを充実させ、事業価値の最大化を目指します。自社開発の2つのBTK阻害剤のうち、AS-0871については、当社初の自社臨床試験を2020年上期中に欧州において開始する予定です。また、AS-1763についても、2020年中の米国におけるIND申請に向けて前臨床試験を進めていきます。

探索段階にある創薬プログラムに関しても、画期的な新薬創製を目指し、共同研究先と連携して早期ステージアップを目指して研究を推進します。

創薬ビジョン2030

自社創薬研究開始	創薬力の具現化	パイプライン価値の最大化	持続的な利益の創出
2010年～2015年	2016年～2020年	2021年～2025年	2026年～2030年
<ul style="list-style-type: none"> 社内研究体制の構築 創薬パイプラインの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 複数パイプラインの導出 自社臨床試験の開始 	<ul style="list-style-type: none"> 自社臨床試験でのヒトPOC* マイルストーン収入による経営の安定化 	<ul style="list-style-type: none"> 複数パイプラインによるマイルストーン、ロイヤリティ収入

→

画期的な薬を
持続的に生み出す
リーディング「創薬」企業へ

*ヒトPOC: 新薬候補物質の有効性や安全性がヒトで確認されること



創薬支援事業

2019年12月期の業績

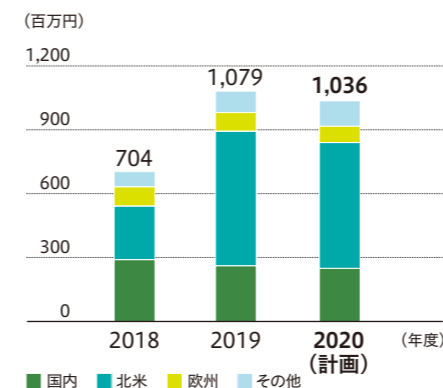
キナーゼタンパク質の販売、アッセイキット、プロファイリング・スクリーニングサービスの提供等により、創薬支援事業の売上高は、1,079百万円(前連結会計年度比53.2%増)と過去最高の売上高を達成し、営業利益は400百万円(前連結会計年度比241.0%増)となりました。売上高の内訳は、国内が259百万円(前連結会計年度比10.2%減)、北米地域は634百万円(前連結会計年度比154.0%増)、欧州地域は86百万円(前連結会計年度比8.3%減)、その他地域が99百万円(前連結会計年度比38.3%増)です。

成長戦略は

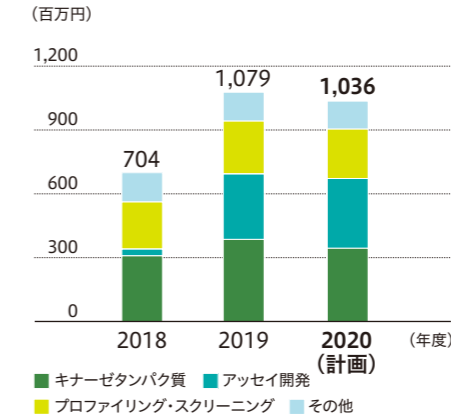
国内に向けては、顧客ニーズを掘り起こす営業活動を継続。北米では、大手製薬企業からの安定的な受注に加え、新興のバイオベンチャーからの受注増加が売上増に寄与したことから、今後も新規顧客開拓によるシェア拡大を目指し、営業活動を強化していきます。中国は、百濟神州(BeiGene)をはじめ、製薬企業が急成長を遂げています。現地代理店を通じた営業活動を推進するとともに、大口顧客に関しては、当社の学術営業員を派遣し、展示会やセミナー形式で、フルレンジのサービスを紹介するなど、より積極的なプロモーションの実施を検討しています。

当社の顧客はがんの研究グループの比重が高いとの認識から、免疫炎症、中枢神経等、他の疾患領域の研究者へも引き続き拡販を図り、売上の拡大を目指します。

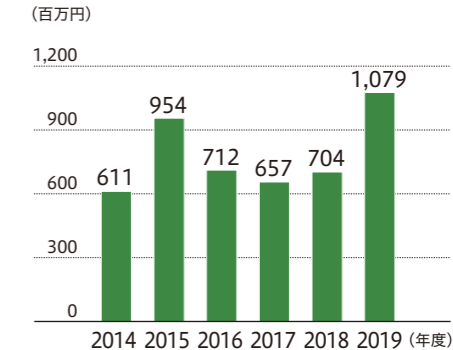
創薬支援事業売上計画(地域別)



創薬支援事業売上計画(製品別)



創薬支援事業長期売上高推移





当社の事業

「創薬支援事業」と「創薬事業」を両輪にした独自のビジネスモデルによって、「安定」と「成長」を両立させながらオンリーワン企業として事業拡大を目指す


キナーゼタンパク質の販売やプロファイリング・スクリーニングの受託を担う「創薬支援事業」で安定的にキャッシュフローを創出し、これを「創薬事業」の研究費や臨床開発費用に充て、革新的な新薬の開発につなげています。


創薬支援事業

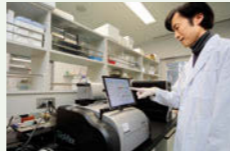
創薬研究に不可欠な高品質なキナーゼタンパク質やアッセイキットをはじめ、低分子化合物のキナーゼに対する阻害作用を解析するプロファイリング・スクリーニングサービスなど、幅広い技術・製品・サービスの提供を通して国内外で顧客の創薬研究を支援しています。

キナーゼタンパク質販売とサービス提供による安定収入

——— 他社創薬ベンチャーにはない当社の強み ———







財務基盤の安定化
ツール提供

新規技術
創薬トレンド


創薬事業

がんや免疫炎症疾患など、アンメットメディカルニーズに応える画期的な新薬の創製に取り組んでいます。当社は、創薬標的探索から新薬の研究開発まで一貫した創薬研究が可能です。この技術力をベースに、継続的に革新的な医薬品を生み出し、飛躍的な成長を目指します。


自社での新薬研究開発

キナーゼ阻害薬の創薬
[がん、免疫炎症疾患などの治療薬]

——— 飛躍的な成長を目指した先行投資 ———







創薬事業の収益モデル

画期的な医薬品候補化合物を次々と生み出し、自社臨床試験によりパイプラインの導出価値の最大化を目指す

当社の創薬事業のビジネスモデルは、当社が創製した創薬パイプラインをグローバルな製薬企業等にライセンスアウトして収益を得るというもの。医薬品候補化合物の価値を高めるため、コスト負担の少ない「フェーズII a」まで自社で開発。製薬企業等に導出後、「契約一時金」、各研究・開発段階での「マイルストーン収入」、新薬上市後の「ロイヤリティ収入」を得ていくモデルです。

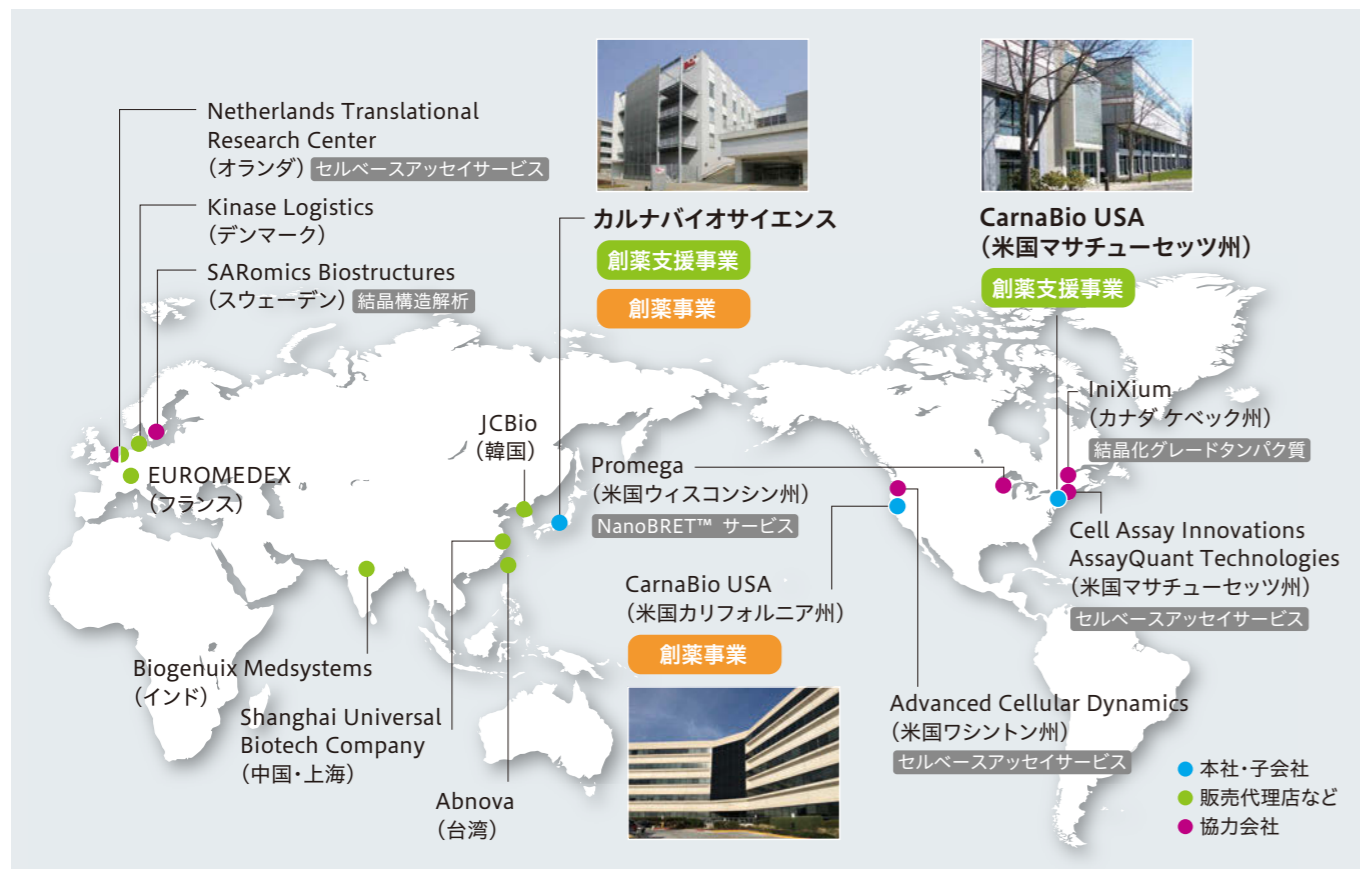


米国サウスサンフランシスコ市に臨床開発拠点を開設

欧米での自社臨床試験を戦略的かつスピーディーに進めるため、2019年2月、当社の米国子会社である CarnaBio USA, Inc. に Clinical Development Division を新設し、

その活動拠点として米国カリフォルニア州サウスサンフランシスコ市に臨床開発オフィスを開設しました。今後、この拠点を軸に臨床開発を進めていきます。同時に、各国の販売代理店や協力会社と連携しながら、創薬支援事業もグローバルに進めていきます。

■ 当社の協力会社・子会社ネットワーク



1 ギリアド社とライセンス契約を締結

2019年6月に米国のギリアド社と当社が研究開発した新規がん免疫療法の創薬プログラムの開発・商業化にかかる全世界における独占的な権利を供与する契約を締結しました。この契約とは別に、ギリアド社による当該プログラムの開発をサポート

するために、当社が開発した脂質キナーゼ阻害剤に関する創薬基盤技術を有償で、ギリアド社に一定期間、独占的に供与。創薬事業、創薬支援事業の両輪で、ギリアド社の新薬開発に協力していきます。

2 BTK阻害剤AS-0871 欧州でCTA申請

自社臨床試験の第1号として開発を進めているBTK阻害剤(AS-0871)の各種前臨床試験が終了し、2019年12月にオランダ当局にCTA(欧州における臨床試験許認可申請)を提出しました。オランダ当局および倫理委員会による審査が完了したこと

から、炎症性免疫疾患を標的とした臨床試験の開始が可能となり、現地での試験準備が整い次第、2020年上期中に健康成人を対象とした臨床試験(フェーズ1試験)を開始する予定です。

3 米国に臨床開発拠点を開設

2019年2月、米国カリフォルニア州サウスサンフランシスコ市に臨床開発オフィスを開設しました。周辺にはバイオベンチャーをはじめ、ベンチャー企業のアライアンス先となる大手製薬企業の研究所が集積しており、臨床開発を進めるには最適な

場所です。ここを拠点に、米国でのBTK阻害剤AS-1763の臨床試験の準備を戦略的に進めるとともに、欧州でのAS-0871の臨床試験のコントロールをしていく予定です。

4 第18回新株予約権の発行

2019年7月に第18回新株予約権(第三者割当て)を発行しました。この資金調達は、2つのBTK阻害剤(AS-0871およびAS-1763)の前臨床試験費用および臨床試験費用、今後前臨床試験段階に進むその他の開発化合物の前臨床試験費用、また

新規パイプラインの創製および導入のための費用に充当することが目的です。資金調達により財務基盤を強化し、研究開発を加速させることで事業価値の最大化を目指していきます。

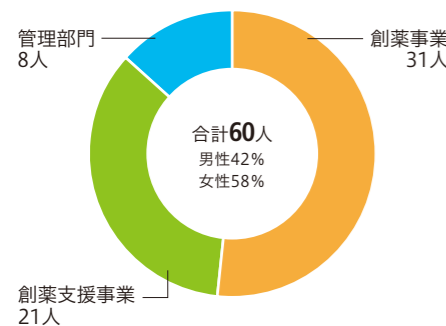
連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 2018年12月31日現在	当連結会計年度 2019年12月31日現在
(資産の部)		
流動資産	1,671,589	5,274,893
固定資産	98,501	101,717
有形固定資産	18,729	29,799
無形固定資産	183	234
投資その他の資産	79,587	71,683
資産合計	1,770,090	5,376,610
(負債の部)		
流動負債	400,139	1,055,162
固定負債	482,497	467,926
負債合計	882,636	1,523,088
(純資産の部)		
株主資本	883,563	3,843,543
資本金	3,591,568	4,657,466
資本剰余金	2,409,593	3,475,491
利益剰余金	△5,117,482	△4,289,192
自己株式	△117	△222
その他の包括利益累計額	△3,326	△851
純資産合計	887,453	3,853,522
負債純資産合計	1,770,090	5,376,610

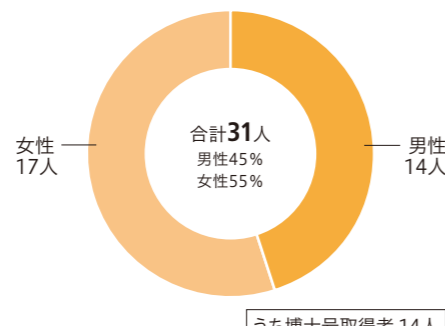
従業員構成

(単位:2019年12月末時点)



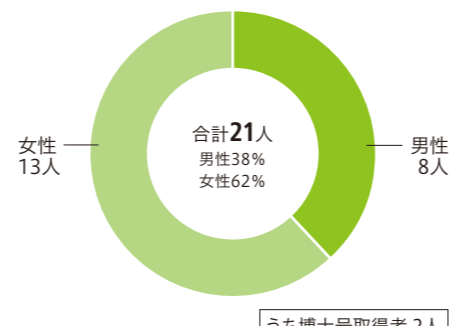
創薬事業従業員

(単位:2019年12月末時点)



創薬支援事業従業員

(単位:2019年12月末時点)



連結損益計算書

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 2018年1月1日から 2018年12月31日まで	当連結会計年度 2019年1月1日から 2019年12月31日まで
売上高	754,691	3,207,423
売上総利益	503,992	2,999,833
営業利益(△損失)	△1,144,519	977,778
経常利益(△損失)	△1,159,223	957,161
税金等調整前当期純利益(△損失)	△1,206,799	913,059
親会社株主に帰属する当期純利益(△損失)	△1,210,573	828,289

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 2018年1月1日から 2018年12月31日まで	当連結会計年度 2019年1月1日から 2019年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,128,026	1,477,773
投資活動によるキャッシュ・フロー	△58,314	△40,945
財務活動によるキャッシュ・フロー	687,522	2,121,748
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,144	1,224
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△500,964	3,559,801
現金及び現金同等物の期首残高	1,856,218	1,355,254
現金及び現金同等物の期末残高	1,355,254	4,915,056

株主の状況

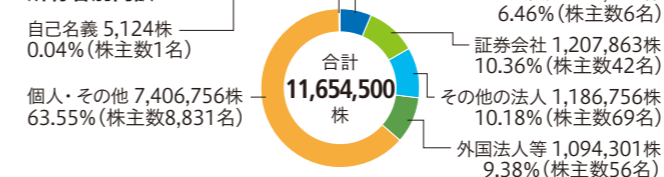
発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式の総数	11,654,500株
株主数	9,005名

大株主

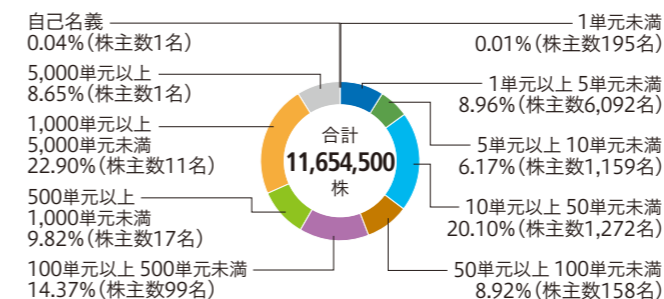
株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
小野薬品工業株式会社	1,009,000	8.66
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	384,000	3.29
株式会社SBI証券	358,092	3.07
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 1300003	345,800	2.96
吉野 公一郎	280,100	2.40
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	259,800	2.23
楽天証券株式会社	208,000	1.78
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	207,600	1.78
松井証券株式会社	205,200	1.76
村山 俊彦	156,300	1.34

株式・株主分布

所有者別内訳



所有株式数別内訳



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月開催
基準日	12月31日
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQ(グロース)
証券コード	4572
株式の売買単位	100株
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載します。 https://www.carnabio.com/japanese/ir/notification.html ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
(インターネット/ホームページURL)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

■ 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

カルナ<CARNA>の由来

当社の社名である「カルナ(Carna)」はローマ神話の「人間の健康を守る女神」です。また「身体の諸器官を働かせる女神」などとも言われています。

当社は生命科学「バイオサイエンス(Bioscience)」を探究することで「人々の生命を守り、健康に貢献することを目指す」ことを基本理念としています。

当社はまさに「カルナ(Carna)」でありたいと願っています。



ホームページのご案内

当社の企業情報やIR情報を掲載しています。
お問い合わせ等は「IRお問い合わせ」ページからお受けしています。

トップページ



IR情報ページ



IRニュースメール新規会員登録
ただいま会員募集中

最新のIRニュース、IR情報をメールでお知らせするサービスです。

当社の調査レポートを掲載しています。
事業内容や業績、今後の計画等をご覧ください。

見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。

これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。

カルナバイオサイエンス株式会社

〒650-0047

神戸市中央区港島南町1丁目5番5号 BMA 3F

TEL 078-302-7039(代表) FAX 078-302-6665

URL <https://www.carnabio.com>

会社概要 (2019年12月31日現在)

商号	カルナバイオサイエンス株式会社
設立	2003年4月10日
資本金	46億5,746万円
事業内容	創薬事業：キナーゼ阻害薬等の研究開発並びに製薬企業等への導出活動 創薬支援事業：キナーゼタンパク質の製造・販売、アッセイ開発、プロファイリング及びスクリーニング・サービス、セルベースアッセイサービス等の提供
従業員数	60名
所在地	神戸市中央区港島南町1丁目5番5号 BMA 3F
上場市場	東京証券取引所JASDAQ グロース(証券コード4572)

役員 (2020年3月26日現在)

代表取締役社長	吉野 公一郎	社外取締役(監査等委員)	有田 篤雄
取締役	相川 法男	社外取締役(監査等委員)	小笠原 嗣朗
取締役	澤 匡明	社外取締役(監査等委員)	高柳 輝夫
取締役	山本 詠美	社外取締役(監査等委員)	松井 隆雄

海外子会社 (2020年3月26日現在)

商号	CarnaBio USA, Inc.
代表者	山本 詠美
所在地	米国マサチューセッツ州、ネイティック(ボストン市近郊)
主な業務内容	北米における創薬支援事業(キナーゼ創薬研究等に関する製品・サービスの販売・提供)及び創薬事業(キナーゼ阻害薬等の臨床開発)
資本金	1,400千ドル
従業員数	3名



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。



この報告書は環境にやさしいベジタブルインキを使用しています。